

アクティブ・

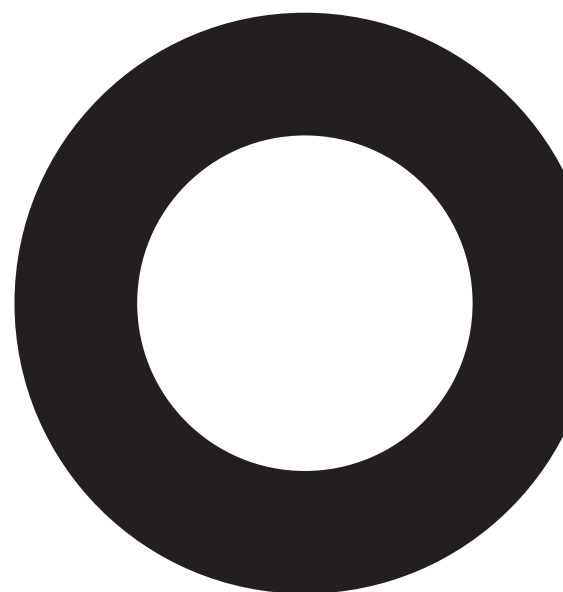
メンバー

シップの

確立に

向けて

.....
JA教育文化活動と
家の光事業
.....



「協同組合らしいJA」づくりが いま求められています



JAグループが直面する 「協同組合の危機」

2019年3月に開かれた第28回JA全国大会では、JAグループは3つの危機——「農業・農村の危機」「組織・事業・経営の危機」「協同組合の危機」——に直面していると指摘されています。

このうち、「協同組合の危機」については、「組合員構成の変化・多様化による『わがJA』意識の低

下」(組織の内側の危機)と「協同組合にたいする無関心・理解不足・誤解」(組織の外側の危機)の2つが原因として挙げられています。

JAグループはいま、この組織の内側と外側の危機を克服し、「協同組合らしいJA」になれるのが問われています。



協同組合教育の不足が招いた 組合員の顧客化

「協同組合の危機」の1つである「組合員の『わがJA』意識の低下」を端的に示すのが、「組合員の顧客化」です。今日、JA職員のなかには、組合員を「お客様」と呼ぶことにたいして、あまり違和感がない人もいます。しかし、組合員は本来、JA運営、協同活動、事業利用の主役であり、顧客とは異なる存在です。

下の図が示すように、協同組合のしくみや理念について、役職員研修や組合員への説明を行っているJAはいずれも半数未満であるという気になるデータもあります。自己改革の成果を着実なものにするためにも、協同組合教育や協同活動の実践など、組合員が組織の主役であることを意識づける取り組みがJAには求められています。

多様化した組合員にどう向き合うか

JAの組合員構成は、近年大きく様変わりしています。JAグループ全体で見ると、2009年度に准組合員数が正組合員数を初めて上回りました。その後も正組合員の減少と准組合員の増加は続き、2017年度現在では正組合員約431万人、准組合員約621万人となっています。

正組合員の構成も、大規模農家から中堅農家、自給的農家など多様化しています。准組合員も

正組合員と同様に、食や農業に関心が高く、「地域農業の応援団」といえる層や、正組合員家族層、事業利用のみに留まる層など、多様化がすすんでいます。

広島大学大学院の小林助教は、このように多様化した組合員のなかには組合員であるという自覚がない人もおり、改めてJAを知ってもらう取り組みが必要だと指摘しています。

■ 組合員・役職員にたいする協同組合教育の実施状況

正組合員にたいして、加入時に協同組合の理念を説明しているJA

208 (32.2%)

正組合員にたいして、加入後に協同組合の理念を説明しているJA

270 (41.8%)

准組合員にたいして、加入時に協同組合の理念を説明しているJA

165 (25.5%)

准組合員にたいして、加入後に協同組合の理念を説明しているJA

172 (26.6%)

協同組合・JA理念等に関する役職員研修会を実施しているJA

209 (32.4%)

「平成30年度全JA調査(平成30年4月1日基準)」より。対象JA数は646

協同組合の原点に立ち返り 組合員の「声」に基づく運営を



第28回JA全国大会の ポイント

「創造的自己改革の実践」を主題に開かれた第28回JA全国大会では、引き続き自己改革に取り組むことが決議されました。

取り組みの基本的な姿勢として、「JAは、協同組合の原点に立ち返り、組合員の『声』に基づく運営を徹底」するとしてうえで、JA役職員は、組合員

にホスピタリティ精神をもって接し、日常的な対話等を通じて組合員との相互理解を深めること、いつもの組合員の意思反映・運営参画を図るため、支店を核とする全戸訪問活動等により、組合員一人一人の「声」を聴き、「組合員との対話運動」に取り組むことなどが確認されました。

JAトップ層におたずねしました

Q 組合員を中心とした協同組合づくり(アクティブ・メンバーシップの確立)を進めるうえで重要と考えていることは?

全体の
約**75%**
が回答

組合員の声を聴く、耳を傾ける

「組合員のところへ直接訪問し、声を聴くこと(=対話運動)は活動そのものが職員教育になる」という意見も

組織づくり

組合員が集まれる場づくり

情報発信

声を形にして返すこと

JA役職員の意識改革

「家の光文化賞JAトップフォーラム2018」参加者への事前アンケートより



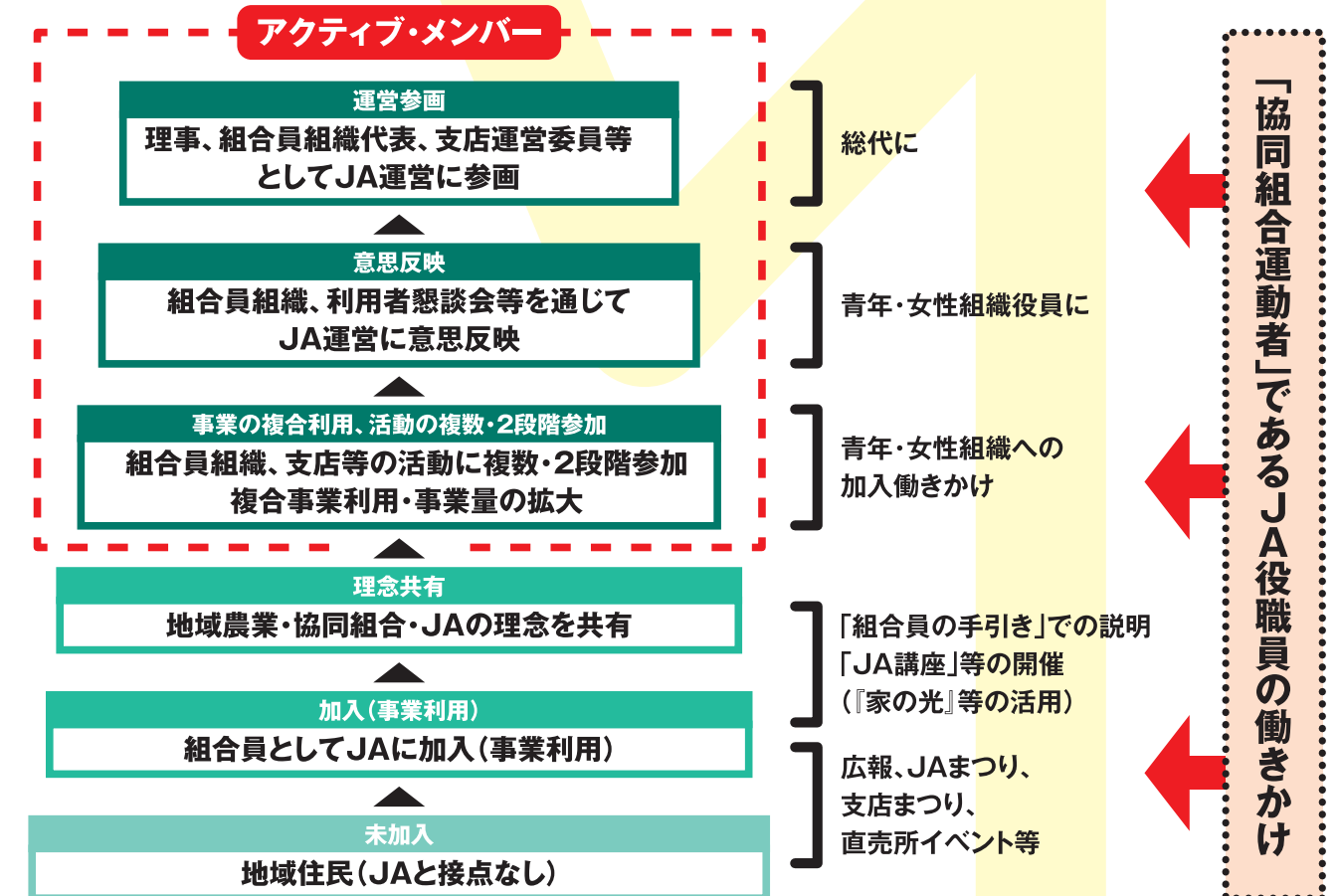
アクティブ・メンバーシップの確立に 欠かせない役職員の役割

自己改革を進めるうえで重要なのが、協同組合の主人公である組合員のアクティブ・メンバーシップの確立です。

組合員の「わがJA」意識が低下しているなか、アクティブ・メンバー、すなわち、地域農業と協同

組合の理念を理解し、「わがJA」意識を持って積極的に事業を利用し協同活動に参加する組合員を増やすには、役職員の働きかけが欠かせません。役職員には、組合員の意識を変える「協同組合運動者」としての役割発揮が求められているのです。

組合員のメンバーシップ強化イメージ



「第28回JA全国大会議案(概要版)」をもとに作成

家の光協会はアクティブ・メンバーシップ 確立の取り組みをとともに進めます

☑ 組合員に「協同組合」を伝えるには、 職員「協同組合学習」が不可欠

全組合員調査に先立ち、多くのJAで展開された組合員との対話運動。そこで課題となったのが、「協同組合とはどのような組織なのか」や、「総合事業がなぜ必要なのか」といった基本的なことから組合員に説明しきれないケースがあったというこ

とでした。組合員に「協同組合」を伝えるためには、職員「協同組合学習」が不可欠です。協同組合理解につながる『家の光』『地上』『家の光図書』や家の光協会主催の各種研修会をご活用ください。



家の光協会主催の主な研修会

- 家の光文化賞JAトップフォーラム
参加対象 JAトップ層
- 地区別JA教育文化活動研究集会
参加対象 JA教育文化活動担当部課長、支店長など
- 地区別JA生活文化活動担当者研究交流集会
参加対象 JA生活文化活動担当者、組合員組織企画担当者など

☑ JAを舞台とした仲間づくりに 『家の光』の記事活用

第58回全国家の光大会で志村源太郎記念賞を受賞した熊本県JA菊池管内の中村巴さんは、女性部の仲間と『家の光』を活用する「家の光クラブ」を設立しました。そして、活動内容をJAの広報誌やSNS、JAの家の光大会などで紹介したところ、メンバーが増えるとともに、管内のあちこちで「自分たちも始めたい」との声があがりました。

JAも「家活」をするグループに助成をするなど

後押しするとともに、中村さんの受賞を機に役職員の間でも「家活」の機運が高まっています。

協同活動の母集団となる組合員組織の育成は、JAの組織基盤を強化するうえできわめて重要ですが、『家の光』はJA女性組織を中心にJAを舞台とした仲間づくりに活用されています。また、組合員と役職員の協同活動や学び合いのテキストとしても有用です。



職員「家の光」持ち寄り読書

自己改革を進めるうえでは、職員が、農業やJA、協同組合に関する正しい情報を共有し、それを組合員・地域住民に伝えることで、理解促進や協同組合運動意識を醸成することが肝要です。JA香川県では、部署ごとに毎月『家の光』の持ち寄り読書を行い、JAや協同組合に関する記事の読み合わせや参加者同士の意見交換によって認識の統一を図っています。



生活文化活動の活性化は事業にも好影響

JA全中の調査によると、組合員が参加したいと思う協同活動の上位は、JA祭りや支店祭り、食農教育イベントや料理教室などでした。*

こうした生活文化活動(くらしの活動)に参加した組合員は、JAに親しみを感じるようになります。このことは、アクティブ・メンバーシップ強化

の第一歩であるとともに、活動への参加が、JAのさまざまな事業や活動を知ったり、組合員とJA職員が顔なじみの関係になったりする機会となり、信用事業、共済事業をはじめとするJAの事業にも好影響を及ぼします。

*JA全中「JAの利用等に関するアンケート調査」(平成27年3月)より

JA教育文化活動を展開し 「協同組合らしいJA」へ

「協同組合の危機」を克服し、
「協同組合らしいJA」をつくるうえで、
JA教育文化活動は必須の取り組みです

JA教育文化活動

疎遠になりつつある組合員・組合員次世代とその家族・地域住民に向けて、
新たに密な関係性を築くための活動

教育・学習活動

協同組合についての理解を深め、JA運動を発展させるための基礎的活動(組合員教育、役職員教育、次世代・女性組織などへの協同組合学習)

情報・広報活動

JAの事業・活動、農業情勢および組合員・地域住民の求める情報を提供し、JA・農業への理解を深める活動

生活文化活動

生活者としての組合員や地域住民の願いや期待を実現し、JAファンを増やす活動

組合員組織の育成活動

JAの最大の強みである組合員組織の育成と自主・自律的な組織づくりのための活動

「家の光三誌」「家の光図書」等の出版、「家の光文化賞JAトップフォーラム」等の研修会の開催、組合員大学・女性大学の開校支援、教育文化セミナー等の開催支援

「家の光三誌」「家の光図書」等の出版、JA紙媒体用「記事素材データ」サービスの運用、「支店だより」の作成支援

料理教室・手芸教室等の開催支援、あぐりスクール・ちゃぐりんフェスタの開催支援、相続相談や組合員資格承継を目的とした「ハッピーマイライフセミナー」の開催支援

JA女性組織・JA青年組織の活性化支援、支店協同活動の活性化支援、「家の光記事活用グループ」の結成支援

主な家の光事業

家の光協会は、JAにおける教育文化活動活性化への
支援をつうじて、組合員のアクティブ・メンバーシップの確立、
JAの組織基盤強化に貢献します